

---

Snow.

零.

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Snow.

### 【著者名】

澪

208870

### 【あらすじ】

主人公  
椎名美優

主人公の彼氏的な野郎  
藍川雪夜

まあ、見てください（・・）  
あらすじじゃないぜ（・・）

## 物語の登場人物（前書き）

国語評価「3」の野郎がかきました^ ^  
生暖かい田で見てやつてください。

君は まるで雪のようだった。

触れたら解けて、消えてしまいそう。

そんな君が愛おしくて仕方ない。

「美優ーっ」

後ろから名前呼ばれる。

セシイ、きつく抱きしめられる。

・・・力強っ・・・っ！

「痛いっでは、雪夜っ！」

そういうと彼はああ、「ごめんごめん」と軽く笑つて

私から離れる。

雪夜は私の、彼氏。

藍川雪夜。  
あいかわゆきや

三ヶ月前のことだった。

\*

「俺さ、ひとめぼれしちゃって……やのつ

俺と、せき合ひへられませんか?」

今にも泣き出しそうな瞳が私を本氣で

好きだとこいつを物語っている。

でも、見た目めっちゃ整そうだな。

「……浮氣しない?」

せき合ひ気なさうでない、ナビ

とつあえず聞いてみよ。

「勿論。今までの女とは全部縁切った。」

「……」

真剣な顔、で。

私をまっすぐ見つめて。

「れじや……」

断るに断れないじゃないか?……!

\*

まあ、そんなこんなで私は雪夜と付き合った始めた。

それから、雪夜は所がまわす

べたべたべたべたべた・・・・・

私、何でこんな奴と付き合つたんだろう・・・・・。

\*

「そいえばさ、もーすぐ美優の誕生日じゃんつ

何欲しい？　俺、何でもあげるよ？

家だらうが車だらうがつ

あ、むしろ俺で」「黙れ。」「

こいつ、本氣で馬鹿だな。

\*

「今日、寒いね。」

マフラーとか手袋とかして

ちゃんと防寒対策してるのでめちゃくちゃ寒い。

「雪、降りそうじゃね？」

なんか楽しみなんだなーっ」

何が楽しみなんだよ。

雪降つたら寒いだけだろ。

「なあ、俺寒いからさあそこの喫茶店入るひつぜん。」

自己中めが。

何だよ、こいつ。

\*

「あ、もう八時か。

帰らなきや。」

「おー、そうだな。

送るよ?」

「大丈夫。一人で帰れる。

つか、私の家もつ見えてるじゃん?」

だから 大丈夫だつての。」

あたりを見回すととてもなく暗い。

しかも めちゃくちゃ寒い。

早く帰りたい。

「ん、わかった。

じゃーな・・・つ

そういうて、彼は私の脣に優しく彼の唇を重ね合わせた。

「～つ！？！～！？」

「寒いからこれ着ろ。

んじや、明日学校でな。」

優しく微笑み人ごみへと消えていく彼。

それを優しく微笑みぼーっと眺めていた。

それだけ、だつた。

痛い、痛い、痛い。

体中のあちこちが痛い。

鈍い音をたて、私は遠くへと

吹き飛ばされる。

車に轢かれたらしい。

多分。

痛い、痛い、痛い、よ。

\*

気がついて目を開けると

見えてくるのは白の壁・・・天井?

「ん・・・つ」

近くで声が聞こえる。

眠たそうな声・・・いや寝てるのか?

「み・・・ゆ・・・つ・・・

・・雪夜か。

起き上がりつとした刹那

体のあちこちに鋭い痛みが私を襲う。

「痛つ . . .

痛い、痛い、痛い。

痛くて涙をこぼしそうになつた時

寝ていた雪夜がようやく目を覚まし

「美優ツ！ 大丈夫かツ？？」

・・・私より泣き出しあつた瞳で

私を覗き込む。

いや、すでに泣いてる。

「・・・何で泣いてんの・・・。」

優しく微笑み雪夜をみつめると彼は安心したよつだつた。

「良かつた・・・。生きてて・・・。」

その一言が嬉しくて、

どこか恥ずかしくて、

ていうか、勝手に殺すな。

「・・・ごめんつ。ごめんなつ・・・。」

涙をぽろぽろと流し

泣き出す彼。

つていうか

「何が？」

意味分からん。

何がじめんなんだ、じこつ。

「俺が．．．あんときちやんと送つてけば

美優が事故らなくてよかつたの」．．．．．

おお、

「こつはどんだけ馬鹿なんだ。

お前のせこじやないだろ、どう考へても。

「お前、馬鹿か。

なんでお前のせこみみたいになつてんの。」

「だつて．．．俺が．．．

「うるさい。」

動かない体をゆっくりと起きあげて

彼の唇に優しく私の唇を重ねる。

突然のこと、だったんで

雪夜はひこくりしていた。

ていいか、固まつてた。

「うざい、ここは病院」

え、だつて、みゆうがおれにあわせ、わいづわい。」

・・・何なんだよ(つい)

事故にあう前に私にキスしてきたく世に

そんなに私が云うのがおかしいのか？

・・・もしかして

嫌だつた？」

「んなわけねえだろつ！」

即答ですか。

「だつて、いきなりだつたからめぢやくぢやびつくつしたんだよ・・・。

それに、美優さ、俺話しかけても冷めてる感じだし。

だから、俺のこと嫌いなのかと・・・。」

「したくなつたんだもん。

冷めてる・・・のかな?

だつて雪夜「ひざ・・・しつこし。

それに、嫌いだつたら雪夜と付き合つてないよ?・・・

顔を真つ赤にさせて手で顔をかくす雪夜。

可愛いな。

「雪夜、大好きだよ。」

「へつー！俺も・・・つー！」

\*

君と出会えてよかつた。

出会わなければこんな嬉しい思いしなかつただろう。

モノクロの世界に居た私を

連れ出してくれてありがとう雪夜。

これからもずっと一緒に居ようね

。

## 暁の聲の口。（後書き）

感想などあればお願こしますへへ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0887o/>

---

Snow.

2010年10月12日02時48分発行